

展示資料目録

季節による野鳥の移動

〈留鳥〉

カイツブリ	東根市
ウミウ	山形市立第九小学校所蔵
アオサギ	尾花沢市
トビ	山形市
オオタカ	山辺町
ハイタカ	東根市
クマタカ	
キジ	中山町
ヤマドリ ♂ ♀	中山町
キジバト	東根市
他15種	

〈夏鳥〉

ササゴイ	東根市
ヨシゴイ	東根市
オオヨシゴイ	東根市
アマサギ	鶴岡市
ミゾゴイ	山辺町
サシバ	尾花沢市
ヒクイナ	長井市
バン	東根市
イソシギ	天童市
ヤマシギ	山形市
コアジサシ	酒田市
他23種	

〈冬鳥〉

アビ	東根市
アカエリカイツブリ	村山市
オオハクチョウ	酒田市
ヒドリガモ	大石田町
コガモ	中山町
キンクロハジロ	酒田市
ホシハジロ	尾花沢市
マガモ	天童市
オナガガモ	天童市
シノリガモ	山形市立第九小学校所蔵

ウミアイサ
他22種

山形市立第九小学校所蔵

〈旅鳥〉

アカアシヒレアシシギ	酒田市
アオシギ	東根市
アオアシシギ	
エゾセンニュウ	山形市
他4種	

〈標鳥〉

ゴイサギ	山形市
ノスリ	中山町
ツミ	中山町
ハヤブサ	
他12種	

〈迷鳥〉

クロハゲワシ	立川町
ワキアカツグミ	山形市
カラスバト	

〈内陸迷鳥〉

フルマカモメ	天童市
オオミズナギドリ	東根市
クロコシジロウミツバメ	東根市

都市鳥

カルガモ	東根市
チョウゲンボウ	羽黒町
イワツバメ	
ヒヨドリ	天童市
カワラヒワ	東根市
ハシボソガラス	中山町
ハシブトガラス	山形市

野鳥の卵のいろいろ

約20点

野鳥の巣のいろいろ

約10点

角田 分氏撮影 野鳥生態写真

35点

野鳥保護パネル・ポスター

約10点

野鳥展

平成3年7月13日(土)～9月1日(日)



ごあいさつ

林内を歩いて、わたしたちになじみの深いガラ類にしても、一見同じところで同じような食物をとっているように見えますが、シジュウカラは林の下層部と地表、ヤマガラスは高木の上・中層部で採食することが多く、しかもほかの種には食べられないような大きな木の実をとって食べています。このようにすみ分けや食べ分けをおたがい上手にやっていることに驚くほかありません。

都市化が進む中で、小鳥たちはどんな知恵をいかして生きているのでしょうか。今回の企画展では、こうした身近な鳥にスポットをあててみました。知ることは親しむことに通じると考えます。

今回の企画展の開催にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成3年7月

山形県立博物館長 古沢平太郎

季節による野鳥の移動

自然に恵まれた山形県は、四季の変化にも富み多くの鳥類が生息しています。現在までに県内で確認された種類数は約340種です。

野鳥は、それぞれの生活にもっとも適した形態をもち、さまざまな環境のなかで生活していますが、多くの鳥は季節によって生息地を変えます。

渡り鳥は、繁殖地と越冬地の間を毎年定まった季節に移動しています。そのため、一地方にすむ鳥は留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・漂鳥・迷鳥などにわけられます。

しかし、最近野鳥のなかで渡りをやめてしまったり、山で繁殖している種類が里でも繁殖するようになったり、くらしを変える鳥たちがでてきています。また、野鳥の観察、研究が進んだ結果、今までの概念で6つのグループに区分するのは困難になってきています。

留鳥

同じ地域に一年中生息して、季節的な移動をしない鳥で、キジ・ヤマセミ・スズメ・ハシブトガラスなどがいます。

夏鳥

繁殖するために日本や山



サンコウチョウ



形県に渡来する渡り鳥で、春に渡来し夏をすごし、秋に南方へ渡って越冬します。ツバメ・カッコウ・オオルリ・キビタキ・サンコウチョウなどがいます。

冬鳥

越冬するために日本や山形県に渡来する渡り鳥で、秋に渡来し冬をすごし、春に北方へ渡って繁殖します。オオハクチョウ・

オナガガモ・ツグミ・アトリなどがいます。

旅鳥

渡りの時期に、日本や山形県を通過する途中で立寄る渡り鳥で、主に春と秋に通過するのが普通です。アカエリヒレアシシギ・エゾセンニュウ・アリスイ・ノゴマなどがいます。



漂鳥

秋と冬の季節に山を降りて平地で越冬したり、国内の暖地などへ小規模な渡りをする種類で、ノスリ・ハヤブサ・ウグイス・メジロなどがいます。

迷鳥

その種類の本来の分布域や、渡りのコースから大きくはずれて、日本に渡来する鳥のことです。

山形県内では、ヒゲガラ(1920・10 最上郡)、サケイ(1968・12 酒田市)、ヒメモリバト(1984 飛島)、ワキアカツグミ(1975・1 山形市)、クロハゲワシ(1990・12 立川町)など、他に飛島などで何種類か記録があります。また、県内では極希にしか確認されていない、コウノトリ・ナベヅル・ツバメチドリなどがいます。

内陸迷鳥

海鳥類が暴風など偶然の機会に内陸部などに迷いこみ、不時着したり、保護されることがあります。県内ではフルマカモメ・オオミズナギドリ・クロコシジロウミツバメなどがいます。



▲ワキアカツグミ



クロハゲワシ▶

都市鳥

日本では昭和30年ごろをさかいにして野鳥の世界に大きな変化がおこりはじめました。山の自然林が大規模に切られ、生活廃水や工場廃水などで水がよごされ、田畑には強い農薬が大量に使用されるなど、急速な開発や公害の発生などにもなって自然環境は悪化して大部分の野鳥は減少していきました。

一方、都市には人びとが集中し、都市化が進み都市の自然はますます失われ、都市から野鳥が姿を消してしまったなかで、最近ある特定の種類の鳥が都市に進出してくるという現象がでてきました。

山形市を例にとれば、スズメ・ツバメ・ハシボソガラス・カワラヒワ・ムクドリ・キジバトなど従来から生息していた鳥に加えて、イワツバメ・カルガモ・ヒヨドリ・チョウゲンボウ・ハクセキレイなどがさかんに進出して数も増加させています。

こうした野鳥の市街地への適応や進出という現象は全国的に同時にみられるようになっていきます。

野鳥が都市環境に入りこめる条件として次のようなことが考えられます。

○人工的であるが樹木が育ち、水辺などの環境も整備され新しい自然ができています。

○都市ならではの食物資源が豊富に用意されている。

○ライバルになる鳥の種類や天敵がすくない。

○都市の人びとが積極的に野鳥を保護するようになってきている。など。